

AI・HALL 自主企画 日英現代戯曲交流プロジェクト ドラマ・リーディング

『ステキなアバター』 クリックひとつで気持ちはずながる？

作／ジュールズ・ホーン 翻訳／谷岡健彦 演出／ごまのはえ(ニットキャップシアター)

2007年3月3日(土)午後7時開演／4日(日)午後2時開演



AI・HALL



『ステキなアバター』

クリックひとつで気持ちはつながる?

Gorgeous Avatar by Jules Horne

作 / ジュールズ・ホーン

翻訳 / 谷岡健彦

演出 / ごまのはえ (ニットキャップシアター)

出演 / 重定礼子 (南河内万歳一座)

久保田浩 (遊気舎)

森本研典 (劇団⊕太陽族)

魔瑠 (遊気舎・-1ST)

[来日メンバー]

フィリップ・ハワード Phillip Howard

=トラヴァース・シアター 芸術監督

キャサリン・メンデルソン Katherine Mendelsohn

=トラヴァース・シアター文芸マネージャー

ジュールズ・ホーン Jules Horne

=劇作家

日時: 2007年3月3日(土) 7:00 開演

4日(日) 2:00 開演

* 3日(土) 終演後、演出家と劇作家らによる
ポスト・パフォーマンス・トークを開催します。

会場: **アイホール** (伊丹市立演劇ホール)

兵庫県伊丹市伊丹 2-4-1

<http://www6.ocn.ne.jp/~aihall>

料金: 1,000円(全席自由席)

前売・問い合わせ: アイホール 072-782-2000

aihall@juno.ocn.ne.jp



照明・舞台監督 / 西崎浩造 (エスエフシー)

音響 / 濱田留美 (エスエフシー)

宣伝美術 / 清水俊洋

制作 / 山口英樹 (アイホール)

中山弘美 (エアリアル・ヴォイス)

主催 / 伊丹市 (財)伊丹市文化振興財団

提携 / トラヴァース・シアター

supported by the Scottish Arts Council



企画製作 / アイホール

平成18年度地域芸術文化国際交流推進事業

助成 / 財団法人地域創造

[作品介绍] 谷岡健彦

インターネットを通じて知り合った男女が交際を始め、その後、結婚に至っていた。こうした現象が生じるようになったのは、せいぜいここ十年ほどのことにちがいない。しかし、本質的にはべつだん新しいことでもないだろう。新聞や雑誌の文通希望欄や電話の伝言ダイヤルサービスといったように、人間は、新しいコミュニケーションの手段が生まれるたびに、それを生かして、自分の身近にいる人ではなしに、遠くにいる生身の身体を持たない他者、言葉の次元にしか存在しない人物と「出会う」ことを求めてきたのだ。

この劇の主人公エイミーはスコットランドの田舎の自宅に閉じこもったきり、ほとんど外に出かけようとはしない。そんな彼女にとって唯一の「出会い」の場はインターネットで、彼女はいまパソコンの画面を介してしか言葉を交わしたことがないアメリカ人男性に想いを寄せている。少々変わった恋ではある。しかし、このエイミーの想いにおれわれが十分リアリティを感じるのは、現実にもそうした事例をしはしば目にするからということもさることながら、われわれ人間がそもそも言葉を受取る生き物だからではないだろうか。

遠くスコットランドに住む若い女性劇作家ジュールズ・ホーンが、日本の観客のみならずの胸に届き、愛されることを願ってやまない。

※アバター=インターネット上でのチャットや掲示板において、ユーザーの「分身」として登場するキャラクター画像のこと。

ごまのはえ

劇作家・演出家・俳優。1977年大阪府

枚方市生まれ。佛教大学在学中に演劇活

動を開始、99年にニットキャップシアター

を旗揚げ。04年に『髪の手紙』で第11

回 OMS 戯曲賞大賞受賞。05年には『ピ

ラカク・ノート』で新・KYOTO 演劇大賞、演出賞、観客賞を受賞。また

同年12月には同作で第12回 OMS 戯曲賞10年ぶり史上2度目の特

別賞を受賞するなど、現在、関西で注目を集める劇作家のひとりである。



Photo: 遠山泰三

ジュールズ・ホーン Jules Horne

スコットランド南部、ホーダース州ホー

ウィック出身。ライターとして数々のラジオ

ドラマをBBCなどに書き下ろす一方、エ

ディター、ジャーナリストとしてBBCオン

ラインでの週刊コラム執筆や、国際ペンク

ラブのニュースレターの編集なども手かけ

る。スコットランド国立図書館口バード、

ルイス・ステイアソン記念賞(02年)、SAC 新人作家奨励賞(01年)

などを受賞。『ステキなアバター』は、トラヴァース・シアターが主宰する

ライタース・グループのメンバーであるジュールズ初の長編戯曲。06年

5月にトラヴァース・シアターで初演後、スコットランド各地をツアーした。



Photo: Douglas Robertson

日英現代戯曲交流プロジェクト

英国スコットランドの首都エディンバラの中心的劇場であるトラヴァース・シアターとアイホールの提携事業「日英現代戯曲交流プロジェクト」は、両国劇作家作品のドラマ・リーディングを契機として、将来的には本格的上演を目指す継続的なプロジェクトです。四回目となる今年度は、トラヴァース・シアターの秘蔵っ子劇作家、ジュールズ・ホーンの名編デビュー作『ステキなアバター』を取り上げリーディング公演します。

※これまでのドラマ・リーディング

04年『雌鶏の中のナイフ』

作/デイヴィッド・ハロワー 演出/鈴江俊郎

05年『ガガーリン・ウェイ』

作/グレゴリー・パーク 演出/土田英生

06年『アイアン』

作/ロナ・マンロー 演出/岩崎正裕

トラヴァース・シアターリーディング
「Japan in Scotland」

04年『月の伊』

作/松田正隆 演出/ニコラ・マッカートニー

『うれしい朝を木の下で』

作/鈴江俊郎 演出/キャサリン・メンデルソン

06年『その鉄塔に男たちはいるという』

作/土田英生 演出/ローヌ・キャンベル

『ここからは遠い国』

作/岩崎正裕 演出/ジョン・ミッチェル

トラヴァース・シアター The Traverse Theatre

世界に名だたる演劇祭、エディンバラ・フェスティバルの中心的な会場として位置づけられており、1963年開場以来、新作上演数は600本をゆうに越え、スコットランドを代表する数多くの劇作家を輩出してきた。また、スコットランドをはじめ世界中の劇作家に新作を委嘱し、その演目は批評家や観客から高い評価を得るとともにさまざまな演劇賞を獲得し、ロンドン・ウェストエンドでの上演や国内外のツアーに発展している。